

## 青森県の畜産と環境整備

青森県農林部畜産課長 石井昌之

### 畜産の概要

本県は三方を海に囲まれた本州最北端に位置し、総面積9,606kmのうち農用地が17.3%を占める農業県である。県の中央部を南北に走る奥羽山脈を境に、特色ある農業生産が行われており、日本海側は米とリンゴ、太平洋側は畜産と畑作が主体であり、特に家畜の80%は太平洋側に集中している。

本県の平成8年度の農業粗生産額は全国第12位の3,131億円であり、その構成は米が33%、畜産22%、果実及び野菜がそれぞれ20%となっている。このように本県農業は、耕種部門と畜産のバランスがとれている特徴があり、今後、堆きゅう肥の流通を通じて両部門の連携を進めていく上での条件に恵まれているものと考えている。

家畜飼養頭数は平成10年2月現在で乳用牛21,600頭(45頭/戸、以下同)、肉用牛58,200頭(33頭)、豚398,500頭(1,021頭)、採卵鶏(成鶏)4,471千羽(89,400羽)、ブロイラー4,465千羽(89,300羽)であり、全体的に飼養戸数は減少しているものの、1戸当たり飼養規模は拡大する傾向にある。(図1)

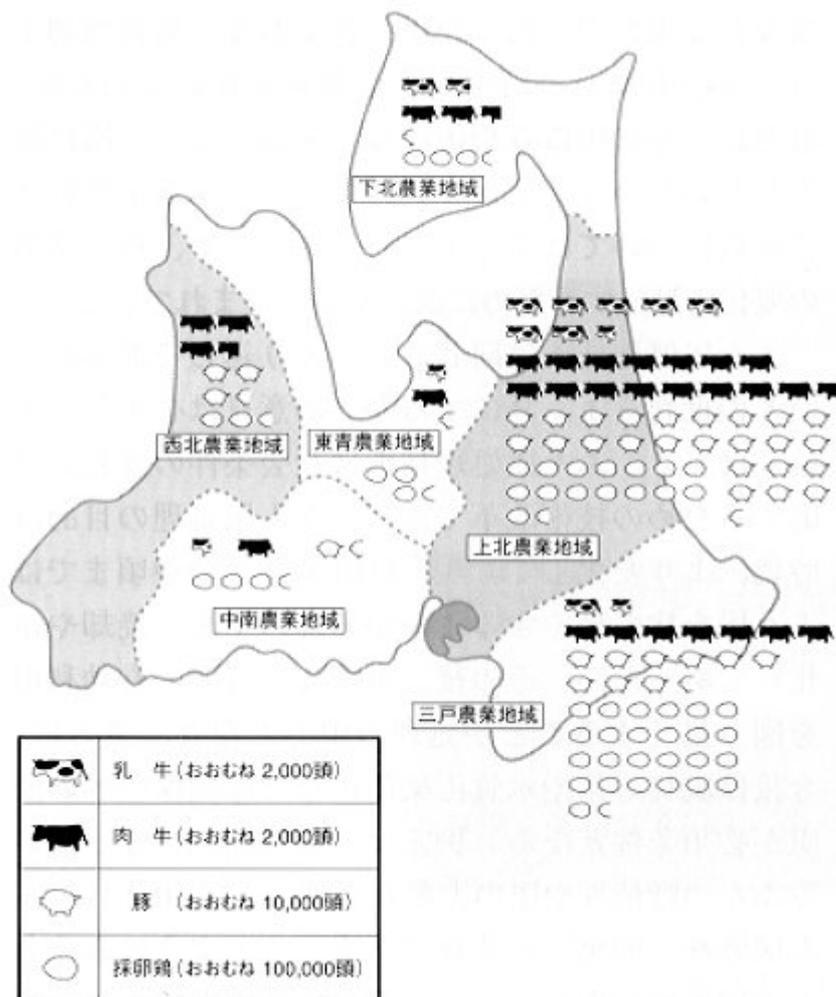


図1 主要家畜の飼養頭羽数分布図

### 畜産環境問題の現況

平成9年度において届出のあった畜産経営に起因する苦情発生は、表IIに示すとおり、殆どが中小家畜による悪臭及び水質汚濁であるが、特に最近では酪農地帯においてふん尿処理施設整備の立遅れやふん尿還元土地面積の不足等により、環境問題が深刻化している。また他の畜種に

においても環境問題等から経営の孤立化がみられていることから、これまでの個別経営に対する環境保全対策に加え、地域が一体となった実効のある環境保全対策の推進が緊急の課題となっている。

### 地域ぐるみ堆きゅう肥活用のシステムづくり

本県においては、安定的な農業生産の推進のため地域の環境との調和を図り、かつ「健康な土づくり」を進めることがきわめて重要となっている。このため、畜産経営と耕種経営の密接な連携による堆きゅう肥有効利用を基軸とし、畜種や経営規模に対応した家畜ふん尿の適正処理による良質堆きゅう肥の生産・流通、水田や畑地への還元及び稲わらの畜産利用の拡大等のシステムづくりが必要であり、このことがバランスのとれた地域農業の発展と環境保全の観点から効果的であると考えている。本県では平成10年度から、これまでの環境保全型畜産関連事業を拡大し、「地域ぐるみ堆きゅう肥活用システム化事業」に取り組んでいる。事業の骨子は従来の実態調査、巡回指導等の環境保全対策に加え、

- ①堆きゅう肥、稲わらのリサイクルシステムの確立
- ②基幹堆肥センターの活性化対策と流通推進
- ③家畜ふん尿処理実用化技術の検討
- ④良質堆きゅう肥生産のためのモデル施設の整備(堆肥盤の屋根かけ等、県単事業)

等であり、地域の畜産農家及び耕種農家が一体となった環境保全の確立を目指している。

### 畜産環境対策施設の整備

本県では、養豚、養鶏の大規模経営において公共事業や畜産環境リース事業による大規模ふん尿処理施設の整備が計画的に進められている。しかしながら酪農経営においては、補助事業上の制約等から、施設の整備が進んでいない現状にある。

このため前述した県単事業により、堆肥盤の屋根かけやふん尿処理施設の拡充等低コストかつモデル的な家畜ふん尿処理施設整備事業を実施しており、その波及効果により酪農経営の環境保全対策につながることを期待している。また今後、各種補助事業やリース事業等を活用し、効率的なふん尿処理施設や周辺環境保全施設等の整備により本県畜産の安定的発展を図ってきたいと考えている。

表1 家畜の種類別苦情発生件数(平成9年)

単位:戸

区 分	豚	採卵鶏	ブロイラー	乳用牛	肉用牛	計	
苦情内容別発生件数	水質汚濁	5	1			6	
	悪臭	8	3		2	1	14
	害虫発生		2				2
	水質汚濁と悪臭	5	1				6
	水質汚濁と害虫発生		2				2
	悪臭と害虫発生	1					1
	水質汚濁と悪臭と害虫						0
	その他						0
	計	19	9	0	2	1	31